

	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見や感じたことを、文章で表現することに課題がある。 ○語彙が少なく、文章の精読に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文法事項で学習した内容を、文章で表現する際に活用できるように指導をする。 ○辞書やタブレット端末等を用いながら、言葉の意味を理解した上で文章が読めるように指導する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○一問一答形式の問いには答えることができるが、複雑な問いになると、答えることができない。時代の流れや因果関係の把握をさせることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○写真や映像資料を用いて、生徒に興味関心をもたせる。 ○ノートやワークのチェックをこまめに行い、生徒の理解度を把握する。 ○年代の並び替え問題や、正誤問題に取り組みせ、知識を定着させる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○1学年：基礎的な計算力の定着 ○2学年：思考・判断・表現分野の向上 ○3学年：思考・判断・表現分野の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の始めに基本的な計算練習の時間を取る。 ○方程式の利用や証明問題の答案の書き方を集団で検討する機会を設定する。 ○基礎的な問題だけでなく理解力を問う問題に取り組む時間を作り、教え合いや学び合いの学習をする時間を取り入れる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査の結果や、本校の状況を踏まえ、「思考力・判断力・表現力」の向上が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験結果から、科学的な根拠を基に考察させる場面を多く設けることで思考力・判断力を養う。 ○他の生徒との対話を通して、表現力を身に付けさせる。 ○生徒の疑問を引き出しながら授業を行うことで主体的に学習する態度を養う。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に活動する姿勢が多く見られる。しかし感受したことを文章に書き起こし、表現したいことを言葉で説明したりする際に、思ったことを十分に表せるような文章や言葉が思い浮かばない様子も見られる。音楽に関して自分なりに評価する思考力や表現力、また評価の根拠となる知識の定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒同士の意見交換の場を増やし、批評文や表現の参考例に触れる機会を増やし、それをもとにしながら自分なりの評価を文章にできるようにしていく。 ○音楽を評価するうえで必要となる語彙や知識を事前に確認した上で批評の活動へ入るようにする。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に活動しようとする姿勢が多く見られる。 ○生徒が授業の主題を理解することで、主体的に表現活動や鑑賞活動をしようとする姿勢を引き出していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心が高まる教材の設定が必要である。 ○導入授業の工夫。（※ICT機器の活用）（生徒の主題への理解度を促進する） ○作品制作の背景、表現活動の目的を認識させる授業を展開して「ねらいをもって表現する楽しさ」を実感させていく。 ○表現活動をする前提となる知識や技能を身につけて、作品に結実させていくことの楽しさ、充実感を実感させる。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○新体力テストの結果から運動を行う生徒と全く行っていない生徒の二極化がみられる。運動を生涯にわたり継続させるために、ただ技能を身につけるだけでなく、技能を身につけるまでの過程を大切にしたい指導を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が運動を楽しみ感じられるようにコオディネーショントレーニングを導入する。また、スモールステップで学習を通じて「できた」という実感をもたせる。課題別学習では、生徒が自分の課題に応じて自ら練習を決定する場面を設定する。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組んでいるが、知識の定着において個人差が出ている。 ○実習で学習したことを自分の言葉で表現する力が弱い。 ○授業で行った学習内容が日常生活の中でどれだけ改善されたのか把握しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレット端末等の活用などを通じて、学習の振り返りを自主的に行えるような支援するとともに、実習のまとめなどで表現力を身に付けさせる。 ○継続した理論の裏付けができるよう、実技とのバランス配分を改善していく。
外国語（英語）	<ul style="list-style-type: none"> ○①「あるトピックについて自分の考えを話し、相手の返答を聞いて会話を継続していくこと」、②「あることについてまとまった量の英語で書くこと」、以上2点で習熟が不十分な生徒が見受けられることから、「主体的に自己表現をしようとする」態度と、そのために必要な表現スキルを身につけさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○①において、帯活動やALTとの授業プラン内の会話活動のタスクの中に、自分の事・自分の考えを伝える部分を多く含めることで、自己表現の継続を意識した活動を多く取り入れていく。②において、教科書各UNITのまとめ、またはYou Can Do Itなどの単元を扱う際に、既習文型を活用し、Topicに添ったまとまった量の英文で、自分の考えを書き・発表する活動を取り入れていく。